

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念 ①学科・専攻の設置理念 ③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等/免許校種ごと）	②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院） ②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）
		<p>成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出すること、学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与すること、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与することを設置の理念とする。</p> <p>なお、成蹊学園では、2018年に成蹊学園サステナビリティ教育研究センターを設置するとともに、2019年には成蹊学園としてユネスコスクールの認定を受け、SDGsやESDの活動を推進することにより、大学のみならず併設する小学校、中学校及び高等学校とともに、文部科学省平成29年度告示小学校学習指導要領及び中学校指導要領の前文にも掲げられている「持続可能な社会の創り手」の育成に努めている。</p>	<p>本学は、「知育偏重ではなく人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育の実践」を唱える学園創立者中村春二の教育理念を受け、「桃李」が人を惹きつけるように、世人が慕って自然と集まり従う、徳を備えた人物の育成を理想とし、「個性の尊重と人格陶冶による豊かな人間性の形成」という建学の精神を掲げて中等教育から出発した成蹊学園の伝統を受け継ぐ大学である。この理念・精神を成蹊教育の原点として学生一人ひとりの個性を尊重し育てることを大切にしてきた。大切に育てられた個性や人格陶冶による豊かな人間性は、視野の広い教養と高度の専門的知識・技能に裏打ちされていることも不可欠である。</p> <p>設置する文系4学部（経済学部・法学部・文学部・経営学部）と理工学部において、そうした願いの下に教養教育と専門教育に取り組んでいる。またこれら5学部が同一キャンパスにあることから、成蹊教養カリキュラムの授業やクラブ・サークル活動を通していろいろな価値観をもった学生同士の接触・交流が広がっており、お互いの個性を尊重し合う社会性を育てている。</p> <p>こうした理念、環境のなかで徐々に醸成される豊かな人間性と能力は、社会的要請である「豊かな人間性を持ち生徒を惹きつける個性的な魅力をもつ資質・力量の高い教員」という要件に合致したものにほかならない。本学はまさに社会の期待に応えられる教師を育て、送り出すための好適な条件を備えていると言って良いであろう。このような利点を大いに活かし、本学は「開放制教員養成制度」の趣旨に則って、教師としての責任感や愛情を育み、教職に関する深い教養と教育的技能を教授する課程を大学教育の一領域に位置付け、全学科・研究科における専門教育に応じた教科で、教職課程を構築することとした。広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的探究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人の期待に応えて活躍できる教師を育成することを願うものであります。教育界に貢献できる教師を送り出すことは、大学としての社会的責任を果たすことになると考える。</p>
<p>文学部</p>	<p>現代社会学科</p>	<p>「①設置理念」「②教員養成」</p> <p>成蹊大学文学部は、文化現象の総合的理解とその継承を基本理念とし、この目標にもとづき、日本および諸外国の過去から現在に至る社会・文化の多様な様相を多角的な視点や方法によって分析・研究するとともに、ますます多様化し複雑化しつつある社会・文化の諸状況の中にあっても自己の主体性を失わず、「時代と社会の変化に柔軟に対応できる自立的な人間」を育成することに努めることを理念とする。この理念の実現のために、少人数教育を基本とする教養教育および専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力および多面的な分析能力の伸長を図ること、並びに言葉を通して形づくられた人間、歴史および社会の多様なあり方を考究し、共感をもって他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することが学部の教育研究上の目的である。これら学部の理念・教育研究上の目的に即し、現代社会学科としての具体的な教育研究上の目的（人材養成像）を次のように定める。</p> <p>(1) 社会学およびメディア研究の理論および実証的研究法を通じて社会を理解するための基本的枠組みを修得させるとともに、少人数による演習を通じて、自らの課題を設定し、過去から現在に至る資料を調査し、議論によって自らの意見を鍛え、他者に対して説得的に表現する能力を育む。</p> <p>(2) (1)に規定する教育を通じて、現代社会の抱える諸問題をその背景にまで遡って多角的に検討できる思考力ならびに状況に的確に対応できる判断力および行動力を兼ね備えた人材を養成する。</p> <p>これらの教育研究上の目的、人材養成像等をもとに、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（文学）の学位を授与とするディプロマ・ポリシー【略】を定めている。</p> <p>○中学校一種免許状（社会） 現代社会学科では、社会学及びメディア研究の理論及び実証的研究法を通じて社会を理解するための基本的枠組みを習得させるとともに、少人数による演習を通じて、自らの課題を設定し、過去から現在に至る資料を調査し、議論によって自らの意見を鍛え、他者に対して説得的に表現する能力を育むことを教育目標に掲げている。そのような教育を通じて、現代社会の抱える諸問題をその背景にまでさかのぼって多角的に検討できる思考力と、状況に的確に対応できる判断力・行動力を兼ね備えた人材の育成をはかっている。</p> <p>上述の学科の性格および目的から、以下のような方針で教職課程を編成している。</p> <p>(1) 社会学、およびメディア研究の基礎から応用に至る科目を体系的に配置し、みずからの問題意識を明確に認識し分析できる能力を育成する。これによって社会の多角的な考察と洞察を深めることのできる教員を養成する。</p> <p>(2) 歴史的な比較、地理的な比較、および社会調査の方法などの基礎的な知識を習得することによって、より広い視野に立ち、社会に関する理解を深める。これによって、国際社会のなかで自らの社会や文化にたいする特色への理解と認識を深めることのできる教員を養成する。</p> <p>(3) 全ての学年にゼミを置きディスカッション等を通じて、共感をもって他者を理解する能力、自己を他者に正確に伝達する能力を涵養する。これによって、コミュニケーションスキルに熟達し、他者への理解を深めるとともに自律的に活動することのできる教員を養成する。</p> <p>以上を総合すると、教職を履修する学生は、現代社会学科の教職課程を履修することによって、中学社会科で必要とする「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質」を身につけた教員を養成することができる。</p> <p>○高等学校一種免許状（地理歴史） 現代社会学科では、社会学及びメディア研究の理論及び実証的研究法を通じて社会を理解するための基本的枠組みを習得させるとともに、少人数による演習を通じて、自らの課題を設定し、過去から現在に至る資料を調査し、議論によって自らの意見を鍛え、他者に対して説得的に表現する能力を育むことを教育目標に掲げている。そのような教育を通じて、現代社会の抱える諸問題をその背景にまでさかのぼって多角的に検討できる思考力と、状況に的確に対応できる判断力・行動力を兼ね備えた人材の育成をはかっている。</p> <p>上述の学科の性格および目的から、以下のような方針で教職課程を編成している。</p> <p>(1) 社会学、およびメディア研究の基礎から応用に至る科目を体系的に配置し、みずからの問題意識を明確に認識し分析できる能力を育成する。これによって歴史的な展開を踏まえた社会の多角的な考察と洞察を深めることのできる教員を養成する。</p> <p>(2) 歴史的な比較、および多様な社会現象の理解する方法を習得することによって、歴史的に広い視野に立ち、社会に関する理解を深める。これによって、自らや世界の歴史的過程を踏まえた社会や生活・文化の地域的特色について、理解と認識を深めることのできる教員を養成する。</p> <p>(3) 全ての学年にゼミを置きディスカッション等を通じて、共感をもって他者を理解する能力、自己を他者に正確に伝達する能力を涵養する。これによって、コミュニケーションスキルに熟達し、他者への理解を深めるとともに自律的に活動することのできる教員を養成する。</p> <p>以上を総合すると、教職を履修する学生は、現代社会学科の教職課程を履修することによって、高等学校公民科で必要とする「国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質」を身につけた教員を養成することができる。</p> <p>○高等学校一種免許状（公民） 現代社会学科では、社会学及びメディア研究の理論及び実証的研究法を通じて社会を理解するための基本的枠組みを習得させるとともに、少人数による演習を通じて、自らの課題を設定し、過去から現在に至る資料を調査し、議論によって自らの意見を鍛え、他者に対して説得的に表現する能力を育むことを教育目標に掲げている。そのような教育を通じて、現代社会の抱える諸問題をその背景にまでさかのぼって多角的に検討できる思考力と、状況に的確に対応できる判断力・行動力を兼ね備えた人材の育成をはかっている。</p> <p>上述の学科の性格および目的から、以下のような方針で教職課程を編成している。</p> <p>(1) 社会学、およびメディア研究の基礎から応用に至る科目を体系的に配置し、みずからの問題意識を明確に認識し分析できる能力を育成する。これによって広い視野に立った社会の多角的な考察と洞察を深めることのできる教員を養成する。</p> <p>(2) 現代社会における国家や社会の諸制度や社会課題の理解、および社会調査の方法などを習得することによって、より広い視野に立ち、社会に関する理解を深める。これによって、現代社会について主体的に考察し、人間としての在り方生き方を自覚的に考えさせることのできる教員を養成する。</p> <p>(3) 全ての学年にゼミを置きディスカッション等を通じて、共感をもって他者を理解する能力、自己を他者に正確に伝達する能力を涵養する。これによって、コミュニケーションスキルに熟達し、他者への理解を深めるとともに自律的に活動することのできる教員を養成する。</p> <p>以上を総合すると、教職を履修する学生は、現代社会学科の教職課程を履修することによって、高等学校公民科で必要とする「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質」を身につけた教員を養成することができる。</p>	<p>現代社会学科では、幅広い知見に基づく情報収集・分析能力と広義のコミュニケーション能力を身につけ、多様な社会の全体像を把握したうえで問題解決のための方策を立案できる人材の育成を目的としている。その教育課程を生かし、日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、および異文化理解の実践についての専門性をもち、自律的な地球市民を育成する能力を身につけた教員を養成することを目標としている。</p>

様式第7号ウ 本来は認定課程ごとに作成するものであるが、まずは基本としてまとめて作成。今後別々にしていく。

<文学部現代社会学科> (認定課程: 中一種免(社会)、高一種免(地理歴史)、高一種免(公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	前期では、教育の基礎的理解に関する科目においては、教師となるために必要な知識と内容を把握し、教育に関する基本的な概念や理論、子どもの発達と各発達段階における特徴とそれに応じた学習メカニズムと支援の方法、などについて学び、教職への関心・理解および進路としての意識付けが各自でできることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、「現代社会入門」「コミュニケーション論入門」といった必修科目を中心に、社会学基礎、社会調査科目、メディア研究基礎に関する科目を履修し、社会系の教科に関する基礎的知識を習得することを目標とする。
	後期	後期では、前期に引き続き、教育の基礎的理解に関する科目においては、教育改革、教育諸問題、改訂教育基本法・学校教育法の要点を理解するとともに学校教育の今後に対する考察を行うための知識と能力を身につけ、生徒指導および進路指導の実践的能力を身につけることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き、「社会学入門」メディア論入門」といった必修科目を中心に、社会学基礎、社会調査科目、メディア研究基礎に関する科目を履修し、社会系の教科に関する基礎的知識を広く習得することを目標とする。
2年次	前期	前期では、教育の基礎的理解に関する科目等においては、1年次の概論的な科目から各論に進んだ科目を履修する。具体的には、教育課程のあり方、指導案作成や教育方法、情報通信技術(ICT)を活用した教育、教育相談とカウンセリングに関する基礎的な知識と技法、特別支援教育の内容および役割などにの知識と基礎的技術を習得していることを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、1年次で学んだ必修科目、社会学基礎、社会調査科目、メディア研究基礎に関する科目の知識を前提として、2年次以降配当の深い専門性のある科目を履修するとともに、「日本史概論Ⅰ」「世界史概論Ⅰ」「人文地理学」「自然地理学」など地理歴史および公民の一般的包括的内容の科目の履修によって、中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の教科内容を習得していくことを到達目標とする。
	後期	後期では、教育の基礎的理解に関する科目等については、前期に引き続き、各論に進んだ科目を履修し、教育課程や授業を進める上での諸技法等を習得することを到達目標とする。 教科及び教科の指導法に関する科目の履修においては、前期に引き続き専門科目の履修、「日本史概論Ⅱ」「世界史概論Ⅱ」「地誌学」「現代の政治学」など地理歴史および公民の一般的包括的内容の科目の履修により専門知識の理解を高めるとともに、「社会科・地理歴史科教育法」「社会科・公民科教育法」において学習指導要領に示された中学校社会科、高等学校地理歴史科および公民科の目標及び内容、教科指導の基本的知識の習得していることを到達目標とする。
3年次	前期	前期では、道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目においては、模擬授業とその検討を通じて、道徳、総合的学習の時間や特別活動などの基本的な指導の在り方を身につけることを到達目標とする。また、教科の指導法では、2年次後期に引き続き「社会科教育法A(主として地理歴史分野)」「社会科教育法B(主として公民的分野)」を履修し、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順をふまえて、模擬授業によって、特に中学校における教科指導の具体的な内容を習得することを到達目標とする。 教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、専門科目の履修に加え、全員が「演習Ⅰ」を履修することとなる。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得するとともに、4年次において全員が完成させる「卒業論文」に向けた学習の基礎をつくることを目標とする。

	後期	<p>後期では、次年度の教育実習の準備としての科目である「教育実習論」を履修し、教育実習の意義と課題を確認し、心構え、態度、基礎知識、実情、判断力および話し方や板書といった実践技能を修得することを到達目標とする。また、「教職特論演習Ⅰ」の履修で、卒業後の教員採用を視野に入れ、これまで学んできた教職、教科のみならず教員として必要とされる幅広い知識を得ることもできるようにする。</p> <p>教科の指導法では、「地理歴史科教育法」「公民科教育法」を履修し、2年次後期から履修した各教科教育法の知識を前提として、教科指導の基本的知識、授業案の作成手順を確実なものとした上で模擬授業を行い、教科指導の具体的な内容を確認させることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、前期の「演習Ⅰ」に引き続き、全員が「演習Ⅱ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質をさらに習得するとともに、引き続き全員が「卒業論文」にむけた学習の基礎をつくることを目標とする。</p>
4年次	前期	<p>教育実習年度となり、「教育実習(中・高)」または「教育実習(高)」を履修する。この科目は、前年度後期の「教育実習論」に引き続き、教育実習の事前指導を受けたのち、実習校における実際の教育実習を行い、そして実習終了後の事後指導を受けることによって、学校教育を体験研究し、授業をはじめとする教員の基礎的な力量を身につけることを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、全員が「演習Ⅲ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得する。さらに、学部での学修の集大成としての「卒業論文」を執筆するため、自らの研究に取り組む。</p>
	後期	<p>後期では、教職課程の集大成として「教職実践演習(中・高)」を履修する。これまでの教職課程の科目履修を振り返り、教員として必要な資質とは何かをもう一度問い直すことで、すでに備わっている事項と不足している事項を認識する。これにより、資質の高い教員をめざす力量を獲得することを到達目標とする。</p> <p>教科に関する専門的事項および学科カリキュラムの履修においては、全員が「演習Ⅳ」を履修する。少人数でおこなわれる演習において、専門テーマのみならず、自律的な学習やコミュニケーション能力という、教員として必要な資質を習得する。さらに、自らの研究を極めつつ、「卒業論文」を完成することが最大目標である。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<文学部現代社会学科>（認定課程：中一種免（社会）、高一種免（地理歴史）、高一種免（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論	現代社会入門		College English (Listening & Speaking) I	College English (Reading & Writing) I
		2	B	教育原理	コミュニケーション論入門		情報基礎	現代社会研究の基礎 I
		2	E	教育心理学	社会調査入門		健康・スポーツ演習 A	情報社会論
	後期	2	D	学校と社会	社会学入門		College English (Listening & Speaking) II	College English (Reading & Writing) II
		3	L	生徒指導論	メディア論入門		日本国憲法	現代社会研究の基礎 II
		3	N	進路指導論	社会調査の方法			
					ネットワーク社会論			
2年次	前期	2	F	特別支援教育概論	歴史と社会	学校経営と学校図書館		College English (Integrated Skills) I
		3	K	教育の方法と技術	近現代日本史A			現代社会研究の方法 I
		3	M	教育相談	日本史概論 I			文化政策学
					世界史概論 I			
					社会学史			
					哲学の基礎			
	後期	2	G	教育課程論	メディア史入門	学習指導と学校図書館		College English (Integrated Skills) II
					日本史概論 II			現代社会研究の方法 II
					世界史概論 II			実践話し方入門
		3	R	ICT活用の理論と方法	労働社会学			
				社会科・地理歴史科教育法	メディアの理論			
				社会科・公民科教育法	現代の政治学			
3年次	前期	3	I	総合的な学習の時間の指導法	生活文化史	読書と豊かな人間性		演習 I
		3	H	道徳教育の指導法	環境社会学			地域福祉論
				社会科教育法A	人文地理学			
				社会科教育法B	教育社会学			
					社会福祉事業史			
	後期	3	J	特別活動の指導法	自然地理学	教職特論演習 I		演習 II
		4		教育実習論	地誌学	情報メディアの活用		メディア・リテラシー演習B
				地理歴史科教育法	コミュニティの社会学			地方自治体の文化と行政
				公民科教育法	社会福祉概論			

4年次	前期	4		教育実習(中・高)	ジェンダーの社会学	教職特論演習Ⅱ		演習Ⅲ
								卒業論文
	後期	4		教職実践演習(中・高)	マス・コミュニケーション論	学校図書館メディアの構成		演習Ⅳ
								卒業論文